



国民の森林・国有林

鹿児島県との意見交換会の様子



5月中旬から6月中旬にかけて、九州各県において、森林管理署と地域の民有林行政を担当する県庁林務関係者により森林・林業の地域の実情・課題の共有とその解決に向けた取組の加速化を図ることを目的に、意見交換会を行いました。

各県との主な意見交換の内容は下表のとおりです。

～課題の共有と解決に向けた取組の加速化を図るために～

民国連携に係る各県庁との意見交換会を開催

	意見交換会で出された課題等
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸林の松くい虫被害対策に向け、適切な防除を徹底 ・人工林の齢級構成の平準化(※1)に向け、間伐に加え主伐を適切に推進 ・主伐後の再造林におけるシカ対策や苗木に対する取組
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーク防災事業や新たな木材需要に向け、一貫作業システム(※2)を活用した主伐の推進、未利用材の搬出促進
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・林業事業者の確保・育成に向け、事業量の共同見通しの公表
熊本県	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇山噴火に伴う降灰対策等、治山対策の緊密な連携 ・エリートツリーの導入検討等、低コスト再造林の促進に向けた取組
大分県	<ul style="list-style-type: none"> ・シカ捕獲推進に向けた相互協力への確認 ・適切な再造林を実施するための苗木確保や低コスト化の取組 ・木質バイオマス発電の動向
宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> ・シカ捕獲推進に向けた相互協力への確認 ・適切な再造林を実施するための苗木確保や低コスト化の取組 ・木材の安定供給と材質等の区分に応じた利用の推進
鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ・シカやイノシシ対策として、さらなる捕獲推進に向けた相互協力 ・適切な再造林を実施するための苗木確保の取組 ・多様な木材需要に向けた早生樹種の取組
沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と調和した持続可能な林業生産活動の取組 ・世界自然遺産登録に向けた相互協力の確認

※1 人工林の齢級(森林の林齢を5年の幅でくった単位)ごとの面積の差を小さくすること。

※2 伐採した直後に植栽まで行う作業。この作業により地拵の簡略化や下刈回数削減等、低コスト化が図られる。

今後は、九州森林管理局や各森林管理署等で、意見交換会で出された各種課題の解決に向けた取組を進めるとともに、これまでの取組の成果について情報発信を進めていきます。

(担当)企画調整課



福岡県との意見交換会の様子



宮崎県との意見交換会の様子

平成27年度
林野庁職員定期表彰式を開催
勤続30年23人・20年14人を農林水産大臣表彰

6月16日、平成27年度林野庁職員定期表彰式が開かれ、永年勤続30年23人、20年14人に対し農林水産大臣表彰状の授与が行われました。
式典は、局大会議室において永年勤続30年受賞者及び局幹部出席のもと執り行われました。

はじめに、川端省三局長より式辞があり、「皆様のこれまでの努力・苦勞に対し、敬意と感謝の意を表するとともに、支えてこられたご家族の皆さまに対しても、感謝の意を表する。今後とも健康管理に努められ、それぞれの部署の中核として、その経験と知識を更に発揮され、九州森林管理局の進むべき方向と取り組みに、一層活躍いただくよう期待する」と述べられました。



式辞を述べる川端局長

その後、林野庁長官の祝辞を、堂本整総務企画部長が代読、続



受賞者を代表して農林水産大臣表彰状の伝達を受ける宮崎署崎野技官

次に、受賞者代表の、宮崎森林管理署崎野健輔技官に、農林水産大臣表彰状が授与されました。



受賞者を代表して謝辞を述べる保全課石原技官

いて、祝電披露が行われました。最後に、受賞者を代表して、保全課石原健司郎技官より、「受賞者として式典に列席できたことはこの上ない栄誉であり、奉職以来国有林を「国民の森林」とするべく日々精進して参りました。今後も森林・林業再生への貢献に寄与するべく、更に全力を傾けていくことを誓います」と謝辞があり、式典を終わりました。

農林水産大臣賞(勤続30年)

- 中山浩次(業務管理官)
- 古市真二郎(森林技術・支援セクター)

- 高木勝一(企画調整課)
- 立場宏一(経理課)
- 石原健司郎(保全課)
- 福田貴史(治山課)
- 谷口正美(治山課)
- 歌野邦美(治山課)
- 前田三文(資源活用課)
- 篠村和希(佐賀署)
- 森浩(佐賀署)
- 高森好文(熊本署)
- 石本敏隆(大分署)
- 有吉正司(宮崎北部署)
- 崎野健輔(宮崎署)
- 命苦健治(宮崎署)
- 釜稔(都城支署)
- 宮本和久(鹿児島署)
- 下村治雄(鹿児島署)
- 井川武史(鹿児島署)
- 吉村浩一(屋久島署)
- 堀川哲郎(熊本南部署)
- 黒木秋夫(西都児湯署)

農林水産大臣賞(勤続20年)

- 佐藤太亮(総務課)
- 蒲池勝也(保全課)
- 和田治仁(治山課)

- 坂本法博(屋久島森林生態系保全セクター)(保全課)
- 山下誠吾郎(森林整備課)
- 江藤香織(熊本署)
- 穴井隆文(大分西部署)
- 藏富英典(西都児湯署)
- 山部勝範(宮崎署)
- 江島昭則(都城支署)
- 吉田幸一(宮崎南部署)
- 梅木剛(北薩署)
- 立久保さとみ(北薩署)
- 河野賢一(宮崎南部署)

(担当：総務課)



授賞式に出席した受賞者のみなさん

保存林が林業遺産に認定される

【宮崎南部森林管理署】

一般社団法人日本森林学会が、学会100周年を契機として、日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、平成25年度から選定事業を行っている「林業遺産」に九州で初めて「鉄肥林業を代表する弁甲材生産の歴史」が平成27年4月28日に選定され、その

中で当署管内の「三ツ岩林木遺伝資源保存林」が「江戸期に成立した鉄肥林業を代表する疎植林の景観を維持している林業景観」として認定されました。

「三ツ岩林木遺伝資源保存林」は明治11年に付近の造林地から採種し、林地に挿し付ける方法で植林された鉄肥スギ造林地で、昭和16年に学術参考保護林に、平成元年からは林木遺伝資源保存林に指定されています。



林業遺産認定書一

人のうごき

7月1日付森林管理局長発令
宮崎南部地域技術官
平生 竜(宮崎南部署)

大隅地域技術官
森本博之(大隅署)

(担当)総務課



私は、日本本土最西端・長崎県佐世保市に住んでいます。海軍の町として急速に発展した佐世保は、『村』から一気に市制を敷いた珍しい市でもあります。



伊藤 香奈さん

戦後、観光都市を目指した佐世保市は、平戸諸島や五島列島などとともに、昭和三十年、全国で十八番目の「西海国立公園」に指定され、今年指定六十周年

用されるほどの絶景です。生まれ育った佐世保が、こんなにも自然に恵まれ、また子ども頃と変わらない景観を今も変わらず保っていることを最近

全についても少しずつですが学んでいます。当たり前だと思っていた西海国立公園・九十九島が、先人から引き継いできた想いととともに人の手によって、大

得て、知識を扱ったから私ひとりでは大きな力にはなれなくても、学んだ知識を一人でも多くの人にお伝えすることはできると思っています。

宝もの“九十九島の魅力”を全国へ発信

年という節目の年を迎えました。「日本を代表する傑出した自然の風景」という国立公園指定の条件に相応しく、西海国立公園に含まれる九十九島(くじゅうくしま)は『日本の原風景』と高く評価され、ハリウッド映画の冒頭のワンシーンとして使

まで、当たり前のことだと思っ

切に守られてきていることを痛感しています。

う、頑張っ

現在私は、環境省「西海国立公園 九十九島モニターセンター」にてガイドボランティア活動を行っています。ガイドに携わりながら、研修にも参加し、九十九島の自然環境やその保護・保

心にならな

今、国

日本本土

(長崎県 佐世保市在住)

今井林野庁長官が来局 職員に訓示

6月26日から28日の3日間、今井敏林野庁長官が九州森林管理局管内を視察され、26日には局大会議室において職員に対し訓示されました。



職員に訓示される今井長官

訓示では、「林業の成長産業化が言われる中、資源クリーンとしての木質バイオマスエネルギーの利用、公共建築物の木造化・木質化など新しい需要を造ると同時に、国産材を安定的・効率的に供給していくことが主題であるが、新しい課題として伐採跡地の再造林もある。九州は主伐体系への転換が、外の地域に比べて最も早く到来しており、そのような意味でも、政策推進の課題にいち早く取り組まなければならないのが、九州森林管理局である。今後も、全国の他の地域の模範となるよう、川端局長指揮の下、国民から信

頼され、頼りにされる国有林行政に取り組んでいただきたい」と述べられました。

幼稚園児に森林教室



森林教室の様子

【宮崎南部森林管理署】日南市飢肥の日南幼稚園で、6月15日恒例の森林教室を開きました。この幼稚園では、森林や緑のふれあい、自然の大切さを教える環境教育に力を入れており、当日は園児約70人を対象に森林の大切さを伝えるために、森林に住んでいる動物や昆虫、鳥などについてのクイズや紙芝居を行い、その後、空飛ぶ種子の紙細工を作り、みんなで楽しく飛ばしました。

最後に、園児からお礼の言葉があり、次回も行うことを約束して、無事に終了しました。

平成27年度 第1回 国有林材供給調整検討委員会を開催

6月10日に本年度1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現状では供給調整を行うことは要しないが、梅雨明けの需要動向に注視が必要である。」との検討結果になりました。

委員からは、「最近はやや雨で、山から丸太の運搬ができないが、現場では造材を続けており、天候が回復すれば一気に出材してくると考えている。国有林材の生産見通しが公表されているが見通しを示してもらえれば問題ない。主伐再造林が進められているが、皆伐ではA材、大径材が多く出材される。A材、大径材、ヒノキの需要を増やさないと価格は上がってこない。A材等の分別が可能ならば調整が必要ではないか。平成24年



委員の意見の様子

座長の遠藤日雄氏

暴落、平成25年の高騰に匹敵する深刻な状況である。柱用丸太ではスギ、ヒノキが逆転することもある。ヒノキの製品は欲しい時に供給出来ないということが、国産材離れにつながりマーケットを失った。大型製材工場をあらたに立地し、丸太の受け入れ量を増やしている。需要、マーケットを見た中で供給を行うべきである。体感では製品の在庫が増え、供給力も増えている。非住宅分野にも売り込まないといけないと考えている。バイオマス発電所への丸太の需要も増えており、安定的に供給していくべきである。円安が進行しているにもかかわらず、スギ、ヒノキの製品が競争力を失っているというのは大きな問題である。通常丸太価格は、市



検討委員会の様子

場に出しすぎて値を下げるが、今年は製品が売れなくて下がっている。製品の注文が開始しており、ここが底で、早ければ梅雨明けには動き出すのではないかと見ており、生産見通しの通り供給するべきである。合板のマーケットは当用買いに徹しているが、盆明けには回復してくると推察している。マレーシアでの違法伐採の取締りの影響で、今後コンクリート型枠用合板が不足すると言われている。供給調整は不要である。チップ用丸太は、奪い合いが始まっており、今年は去年の半分しか集荷できないのではないかと危惧している。A、B材の事情もあるだろうが、生産量は出来るだけ上げて欲しいなどの意見が出されました。

(注)委員会概要は局ホームページに掲載

(担当)地域木材情報分析官

平成27年度安全週間行事の一環
**「交通法令講習」と
「車両点検説明」を開催**

安全週間中の行事として、7月6日、局職員を対象に「交通法令講習会」と「車両点検説明会」を開きました。交通法令講習会では、熊本北警察署松永仁幸交通第一課企画係長を講師に招き、局大会議室において職員約70名が参加しました。



講師の熊本北署松永企画係長

講師から、①今年には交通事故による件数や死傷者は減少傾向にあるが、横断歩道での事故が多いことから、「手を前」に出して合図する「てまえ運動」の定着が必要であること②飲酒運転では前夜の飲酒が翌日にも残っていることから、運転するときには前日の飲酒の量を抑えること③改正道路交通法の施行に伴い、自転車運転者講習の対象となる危険行為の説明④二輪車と乗用

車の事故の発生状況など事故の事例を紹介したDVDによる講話がありました。

受講した職員は、講師の「横断歩道の事故防止に、特に努めてもらいたい」「ちょっとしたこと、加害者あるいは被害者になり得る」との話しに熱心に聞き入っていました。

今回の講習会を機に、職員は「常日頃から、安全運転に努め交通事故は絶対に起こさない」との決意を新たにしたいと思えます。



DVDを観ながら聴講

エンジンオイルを点検する職員



午後からは、局構内車庫において車両整備契約相手の整備工場から講師を招き、「車両点検説明会」を行い、職員約30名が参加しました。

日常点検整備については、各項目に沿って①ボンネットを開けて②車の周りをまわりながら③運転席に座って行う点検方法と、チェックポイントについて説明を受けた後、グループに分かれて4台の庁用車の点検を行いました。参加した職員は、各点検項目をお互いに確認しながら、ブレーキオイルの液量やタイヤの点検など、真剣に行っていました。

今回の講習会及び説明会により、職員一人ひとりが、初めに帰り、交通事故防止に向けた取り組みに気持ちを新たにしたいとなりました。

(担当：総務課)

鹿被害対策を協定

【宮崎北部森林管理署】宮崎県北地域の民国連携した鹿被害対策の一環として、このたび、日之影町と2つの有害鳥捕獲班、宮崎北部森林管理署との4者による鹿被害対策協定を締結しました。この協定は、囲いワナ2基（誘因捕獲）とくくりワナ50個の無償貸付することとし、特にくくりワナについては、国有林の周辺の民有林にも被害があれば使用可能であること。また入林届の簡略化や、鹿被害エリアの情報交換等を行い、鹿被害対策を強化するものです。

鹿被害対策協定調印式



調印式を終えた4者

日之影町長は、「協定締結にあたって大変うれしく思う。これを機に国、町、捕獲班がさらに連携し、被害の軽減につながることを期待する。」と謝辞を述べられました。同町では有

害捕獲が年間を通して実施されており、この協定により、さらに4者で捕獲を推進することとしています。

森林整備協定運営会議を開催

【長崎森林管理署】対馬地域森林整備推進協定更新後、第1回運営会議を6月17日に、対馬市役所において、長崎県対馬振興局、対馬市、長崎県林業公社、対馬森林組合、長崎森林管理署の協定締結メンバーで行いました。

冒頭 岡本一孝署長より、対馬林業の発展に寄与できる協定となるよう、協定者間の情報共有を図りながら、森林整備、路網の整備に取り組んで行くことが大切との挨拶の後、議事に入りました。議事では26年度及び27年度の事業実行状況や島外出荷、路網整備の状況等について協議し、今後も民国連携して森林整備を推進し、対馬林業の活性化に貢献して行くことを確認しました。



運営会議の様子

韓国と情報交換

【佐賀森林管理署】虹の松原において韓国のボランティア団体、唐津市、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNE、いちろく会、福岡県樹木医会など約20名が参加し、6月26日、海岸林の保全に向けた情報交換を行いました。

韓国においては、国民性として松を大事にしているにも拘わらず、地域住民による積極的な松林の保全活動まで至っていないとして、虹の松原の取り組みを視察したものです。



情報交換を行う参加者

情報交換では、同KANNEによる松葉かき、清掃活動等保全活動の内容や多くのボランティアを参加させる秘訣、また松くい虫被害対策の取り組みなどについて意見を交わしました。

情報交換を終えて、「虹の松原は地域のボランティア活動をはじめ関係機関の努力により大切に守られているのが良く理解できました。今後の韓国での取り組みの参考にしたい。」と挨拶があり、有意義なうちに終了しました。



名前のとおり、浜に生えるヒサカキの意味です。花の観察をすると雌雄異株で、雄花、雌花の作りはヒサカキ全く同じで、雄しべはたくさんあり、雌しべは1本で柱頭は3裂しています。若い葉はやや内巻き、葉は狭倒卵形、先は凹み、枝には密に短毛があります。

冬芽は年中付いています、裸芽(らが)と呼ぶ冬芽で、芽がだんだん大きくなって葉として成長します。

サカキは関東地方以南にしか生えていないので、サカキのな

熊本行政評価事務所

からのお知らせ

情報公開・個人情報保護
総合案内所

場所 熊本市西区春日二丁目十番一号

熊本地方合同庁舎B棟四階

総務省 熊本行政評価事務所内

開設時間 午前八時三十分～午後五時十五分

(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

電話 〇九六(二二二)九三七七

★ 開示請求の窓口はどこなの？

★ 開示請求は、どうすればいいの？

93 ハマヒサカキ (ツバキ科)

いところではハマヒサカキやヒサカキが代用として神事に使われます。

ハマヒサカキは千葉県以西に分布しています。

ハマヒサカキは浜辺に行けば何処にでも観察でき、乾燥に非常に強いように見えますが、調査結果では、斜面の凹んだところに生えていつも水の供給があるところにしか生えないそうです(植物雑学辞典)。

庭園木として普通に植えられており、剪定に強いことから垣根として利用されます。



「光陰矢のごとし」と月日の経つのが早いことをよく例えますが、受賞者の方々は30年を振り返ってどんな感想を持たれたのでしょうか▼この号にも掲載されていますが、先日、林野庁職員定期表彰式が永年勤続30年の受賞者出席のもと執り行われました。受賞者の方々には心よりお祝い申し上げます▼30年とひとくちに言いましても、昭和から平成へと変わり、パブル景気とパブルの崩壊、国有林野事業では、木材価格の下落・低迷、数次にわたる改善計画と抜本的改革、一般会計化など大きな情勢の変化がありました▼これらの変化を経験され、更に業務においてもそれぞれの部署の中核を担い、活躍されています▼また、川端局長の式辞、受賞者代表の謝辞に、「家族の支え」がありました▼永きにわたり勤めてこられたのも、家族の支えがあったからこそ▼今月から「ゆう活」が始まりました▼スキルアップもですが、午後の1時間を家族サービスに使ってみるのも一計ではないでしょうか。

(や)